

日本PTA
長崎大会

第6分科会報告
「人権・平和教育」
(秦野市・鮎沢)

まず原爆の「かたりへ」下平作江さん（79）のお話を伺う事ができました。長崎は造船所があった事もあり度重なる空爆に苦しめられてきたことを知りました。その空爆の惨状そしてあの日かやて来ます。焦土と化し死体だらけの街、家も家族も失い妹さんと2人生き残り、原爆での傷を負いながら児童2人生きていくのは辛く苦しいものであろうと思います。その体験と悲しみや心の内は私の想像をはるかに超えたものであります。数年後、原爆で受けた傷が癒えぬまま妹さんは自ら命をたつたそうです。そこを下平さんは生きる勇氣 死ぬ勇氣」とう言葉を交えて語っていました。そんな迷いや苦しみを抱えた中、今生きていて良かったとも語っていました。お話を聞いて改めて、日本は唯一の戦争被爆国として世界に「平和と反戦・核兵器廃絶」を訴えていかねばならないと感じました。講演会、実践発表、パネルディスカッションでは、「いじめ問題」と「子供達の自尊心、自己肯定感の育み」についてお話がありました。「いじめはする方、される方どちらが悪いのか」について、講師の方は「いじめは、する方が絶対に悪い」と優しい口調でしたが強い思いで仰っていました。いじめの議論では「いじめられる方にも原因がある」という意見が必ず出されますが、それは原因であっていじめを肯定するものではないです。という強いメッセージを私たち大人は、子供たちに伝えなければならぬと思いました。私たち親は日常子供との会話で「でも」という言葉を用いてしまっているそうです。子供たちを信じ味方となり、本人の意見や自由を肯定しつつも「でも・・・」と最終的に否定してしまっているということです。これは子供の自尊心は育ちません。「でも」の使い方は要注意で、なるべく使わないか「・・・でも、あなたの自由にして良いのよ」のように子供を肯定してあげる言葉を後

第6分科会のテーマは、
人権・平和教育についてでありました。

に言うのが良いということを感じました。嫉のつもりで子供達に厳しくするうちに怒りに変わっているとのこと、私にもよく身に覚えがあります。一方で日本には「恥」の文化があり、良い面もたくさんあると思いますが、そのせいか私もそうですが、愛情を行動や言葉で表現することがとても苦手なようです。しかし子供達が自尊心を育むうえで「やさしさ」「ほめる」ことを、言葉や行動で大人が子供に示すことが重要だそうです。鳥取県のPTA活動の事例で「10秒の愛」が少し紹介されました。「やさしさは子供の心に貯金されるそうです。沢山の「優しさ」は子供の自尊心、自己肯定を育む大切なものです。子どもの孤立についての国際比較のデータが紹介されました。日本はワーストです。自宅にすら自分の居場所を見いだせない子が沢山いるとのこと、ストレス社会と呼ばれ、アベノミクスで女性の社会進出が政策でも叫ばれている今、PTAが地域社会の協力と理解を得ながら子供達の自尊心と自己肯定感の育みについて話し合い行動していくことも一つ大きなテーマであると感じました。

心のきずな61教育支援基金
(日本PTA事業)

東日本大震災の被災地の子どもたちのことを忘れることなく、新たな支援の手を差し伸べるの思いを込め創設しました。日本PTAの、公益目的事業である「教育助成支援事業」として被災地の教育環境を整え、子どもたちの健全な育成に寄与することを目的とします。(詳細は日PPホームページをご覧ください。)

― 神奈川県PTA協議会はこの事業へ全面的に協力を行っています。―

インクルーシブ教育推進フォーラム
「共に学び共に育つ
教育について考える」
(愛川 定立原)

1月30日に県教育委員会主催のインクルーシブ教育推進フォーラム「共に学び共に育つ教育について考える」の講演会が海老名の文化会館で行われました。今回のフォーラムでは、インクルーシブ教育の理解をより深めるために昨年末に3回行われ、今回4回目で最後になりました。内容は3部構成で、趣旨説明・帝京科学大学の滝坂教授を招いての講演会、続いて早稲田大学大学院の高橋准教授と県PTA執行役員の遊部氏の2人のパネリストとの滝坂講師でのパネリスカッションです。今迄のインクルーシブ教育の講演会とは一味違った切り口の講演で、インクルーシブそのものから県教委が数十年前に渡って講師と共に取り組んで、共生社会を目指し全ての子ども達が障害あるなしに共に学びあえる学校・学級・授業作りを行い地域との貢献を取り入れた教育であることを伝えたインクルーシブについてわかりやすい講演でした。また、パネリスカッションでは、大学院准教授である高橋あつ子氏による詳細な説明があり、ユニバーサルデザイン、インクルージョンを合理的配慮の基、全ての子ども達に対応する教育であること、子ども達1人1人にあった教育を提供していくことがインクルーシブ教育だと言っていました。一番印象的なのが県PTAからのパネリストの遊部氏が主張していた、学校教師と保護者や地域との関わり方



パネルディスカッションの様子

第63回日本PTA全国研究大会
第62回日本PTA北海道ブロック研究大会
札幌大会開催
平成27年8月21日(金)～22日(土)

大会スローガン
ひろがれ 子の未来! つながれ 親力!
～今 札幌から始まる これからのPTA～

第47回 関東ブロック
PTA研究大会 横浜大会
平成27年度 横浜市PTA連絡協議会研修会
平成27年
10月24日(土)分科会
10月25日(日)全体会

主催: 関東ブロックPTA協議会
主管: 横浜市PTA連絡協議会

第47回 関東ブロックPTA研究大会横浜大会
平成27年度 横浜市PTA連絡協議会研修会

レポート特集

一期一会

県P役員が
行ってきました

「心にしみた
あの講演会」

PTA
講演会

日本PTA
長崎大会

特別第1分科会
「子どもたちの育ちを阻害するもの」
(平塚市・太田)

長崎大会に出席するために、夏の家族旅行も九州に設定し、早々と九州入りをしました。長崎と言ったらハウステンボスだと思い、私は、日本PTA担当の特別第1分科会を「私」と内容で選びました。まずは、第1部講演の内容。子どもたちの育ちを阻害するものを報告いたします。最初に症例5例の写真を見ました。講師の池田氏は医学的な立場からの見解を話して下さった。傷跡で、どのような暴力手段が使われたのかが見えてくるそうです。子どもたちは、殴られ、煙草でやけどを負わされていても、傷を負った経緯を話さず、痛みと虐待に耐えているかと思うと悲しい気持ちになりました。虐待を行っている60%は実母で、普通の母が普通の子どもに虐待をしている現状や、神奈川県虐待相談数は全国2位であることなどを知りました。ただし、相談も通報しない県もまだまだ多いので、この2位は定かでないそうです。虐待による損傷の特徴は、以下の通りです。①多数の傷 ②新旧の傷の混在 ③つじつまの合わない話の ④身体の外見を修正された虐待防止法では、虐待を発見したら通報する義務が国民にあるそうです。次に、第2部講演ではシンポジウム形式で行い、子どもを取り巻くメディアの現状と対策について学びました。一番衝撃的だったのが、タッチパネルのベビープリばかりで遊ぶ幼児が、雑誌のページをめくることのできない映像です。これは、指や体の使い方を遊びながら学ぶべき時期に学べなかったからだそうです。メディア依存の子どもは、現実認知の歪みを引き、指や体の使い方を学び損ない、反応性愛着障害を引き起こす可能性があるそうです。しかし、今の時代、メディアのない生活することはできません。ここで大事なことは、保護者の啓発です。私達が直面している子どもが持つスマートフォン。トラブルが続出していることはご存じだと思いますが、我が子のスマホの利用状況を見逃していませんか？



約束がない場合は、親子でゆっくり話し合いをして約束事を決めることをお勧めします。万が一違反した場合、なぜ違反したか聞き、どうしたら守れるか子どもに決めてもらいます。禁止や規制を目的にせず、自立する大人になる過程を目指した約束を作ることが大切です。また、地域ぐるみで啓発できるとより良いと講師の方はおっしゃっていました。中学生、高校生がいて、スマホのあり方に悩んでいる保護者の方がいらしたら、まずはPTAとして実態調査をし、保護者と学校で連携して、子どもたちに社会的能力や自分を守る能力を育てよう働きかけられることを一案として提言していました。講演会後は、ハウステンボスで遊んでいた家族と合流し、ハウステンボスを巡りました。異国の街並みを表しているだけあって、オシャレな建物と夜のイルミネーションが素敵です。自分の顔をキャンにして自分も映画の登場人物になるアトラクションでは、入場者全員顔をスキャンするので、非常に時間がかかるにもかかわらず、自分も家族もどきで登場していたのが全くわかつたので、日中歩き回っていた次男はくたくたで「帰りたいコール」が鳴り、ワンデーパスを購入したにもかかわらず、3つの施設しか体験できず、主婦としては少々残念な感もありましたが、家族旅行に兼ねた大会へも参加でき、有意義な時間を過ごすことができました。

関東
ブロック

さいたま市大会 第6分科会
(綾瀬市・保坂)

関東ブロックさいたま市大会では、8つの分科会が開催されました。①地域連携②安心・安全③健康④家庭教育⑤人権⑥組織・運営の伝統文化A(益城)⑧伝統文化B(木目込み人形) 今回私は、第6分科会の組織運営で行われた基調講演を取り上げてみます。講演者は、山本シウ氏です。大阪府門真市出身。筋金入りのフリースタイルな生き方は、長屋住まいの中でオッチャン、オバチャ、ヤチャちゃんのお節介りで育てられたおかげとのこと。別名「レモンさん」と呼ばれ、大きなレモンの被り物をしてこのキャラクターで5年間小学校のPTA会長を務めました。その後もPTA顧問を続けているラジオのDJおやひ。PTA活動を行うにあたっての、合言葉は「We are シンセキ」登場するなり、関西弁で弾丸トークとしゃべりまくり、事例発表を終えて落ち着いていた会場の雰囲気は、変化した後、雑談の中から徐々には誘導がつかみくまな。●子どもと距離感がつかみくまなという現代社会において、真に子どもたちの心内を理解するには大人の接し方が何より大切！「コミュニケーション5カ条」その1 心のパスワード：人は自分を理解してくれる人が好き。理解の言葉を発することにより心のパイプが繋がる。その2 理解のカタチ：ありのままを話させ、状況を聞き出し確認する。こちらは共感ではなく同調する。その後こちらの意見を話す。その3 心は心を引き寄せる。人の心には愛と憎悪が同居している。愛の心で接すれば愛の心が引きだされ、憎悪の心で接すれば憎悪の心を引き出してしまふ。その4 心の鍋：心を閉ざした子どもの心は氷がいつぱい入った鍋の状態。コンロの火で温めてもすぐには溶けない。しかし、温め続けることで少しずつ溶け出し、心はある日突然沸騰する。その5 北風と太陽：「説得させるのは北風」「納得させるのは太陽」●そして「私たち保護者の特徴を自ら自覚することも大事！」

山本氏は自らを含め、昭和世代保護者の特徴DNAをこう表現しています。「昭和の「愛しい1人1人」」①すぐ感情的になる②話を聞かない③絶対自分が正しい④極端な上から目線⑤すぐダメ出しのすぐ悪者を作る⑥すぐ戦おうとする⑦相対評価する⑧現代は、まわりの子と比せず、昨日の〇ちゃんよりすごい！と褒めなきゃ⑨男尊女卑 現代は、男は男らしく、女は女らしくではない。あなたはあるらしく。●自分を理解した上で、昭和の「愛しい1人1人」を持つ「我々の処方箋はこれだ！」①We are しんせき！みんな仲間だと思えば優しい気持ちに②Oh!ドラマティック！何が起きている！大事件が起きている！の一言で冷静になれる③ピンチはチャンス(自ら奮い立たせる)④語尾に「ポヨヨヨ」(これを付ければ夫婦喧嘩も笑いに変わる)⑤「〜」と思うけど、〇ちゃんはどう思う？」親の意見を押し付けない⑥「わか but ×」(否定形の言葉はダメ)●悩んでるあなたへ子育てはムリエだ！①MENU(何がやりたいのか考えさせ)②アドバイス(おしえてくれる作り方を少しだけ教える)③テイピング(時々味見)④決めさせる(このままでもいいのか判断させ)⑤責任を負わせる(自己責任であることを理解させる)●子どもを自立させるために養わなければならない5つの力は、これだ！①考える力②決める力③実行する力④受容力⑤責任力



神奈川県 PTA協議会ホームページのご案内
会員の皆様へ 情報発信ツールとしてホームページへ様々な事業内容や保護者の皆様に知っていただきたい内容・家庭教育に必要な内容等を掲載しています。是非一度ご覧ください。Facebook・メールマガジンの配信も行っていますので合わせてご利用ください。

登録は、県Pホームページ「メルマガ登録」より、ご自身のメールアドレスを入力して「登録」をクリックしてください。

http:// www.pta - kanagawa.com /
ご意見等はこちらへ E-mail: Kaminokidai@ pta-kanagawa.gr.jp